



大館市の観光と

将来を考える

広報市民レポーター

吉田 秀人 (水門町)

**大館市に
観光資源は
ないのか?**

大館の観光資源を考えると、市民の皆さんがご存じのように数多くあります。たとえば、秋田犬、キリタンポ、曲げわっぱ……かなりの数になります。しかし、これらがすべて有機的に機能しておらず個々にあるため、観光客を引きつける力になっていないのです。



▶大館市の観光イベントで最大の「夏まつり」

ないのです。

あるとき、私は観光会社に行く機会があり、何の気なしにパンフレットを見てみると、東北の観光地が写真入りで紹介されていました。さてわが大館は、と見ますとどこにも書かれていませんでした。これでは外部の人たちが訪れるわけがないとガツカリしました。「客の呼べないような所は、パンフレットにも載せられないのは当たり前なのではしょうか?」。地元の人たちが、たくさんあると思っっている観光資源は、外から見れば何もないのと等しいということなのかと残念に思いました。

秋田犬をもっと売りだそう

観光資源としての秋田犬。世界には何百万人もの愛犬家がいる中で、この資源を活用しない手はないと思います。しかし当市にある秋田犬会館を見に行ったのですが、少し考えさせられました。どうしてかと申しますと、はく製や写真の展示のみで実物の秋田犬はいま

せんでした。

秋田犬の良さを知ってもらうのに実物がないのでは、せっかく来館していただいた観光客もガツカリしてしまうのではないでしようか。

このままでは湯沢の犬っこ祭に大館の秋田犬はとられてしまいます。きりたんぼのように元祖はこつちだ、本場はこつちだと騒いでいるときではないのです。もっといろいろな企画やアイデアを取り入れて秋田犬を売り出す方法を考えてはどうでしょうか。

その一つに、昨年の「まちづくりシンポジウム」で出された「秋田犬をどんどん増やし、渋谷のハチ公のそばに店を出し、子犬を売ったら……」ということも考えてみてはいかがでしょうか。関係者に一考をお願いします。

曲げわっぱを 旅館、食堂、学校 でも使おう

秋田犬だけではなく、観光資源すべてとはいませんが同様な気がします。曲げわっぱもそうです。

関東、関西では、その価値を十分わかってもらい地元より数多く利用していただいているということだと思います。

曲げわっぱを観光客の目につくよう旅館や食堂での利用を考えてみてはいかがでしょう。また小学校の給食用の食器として使用すれば、郷土の勉強にもなるし、高価なものであれば大切に使うこと身につくはずですよ。

実行することはたいへんですが、勇気をもって行動することが、いまの大館にはいっばい必要なことではないでしょうか。

観光資源は大事な地場産業のひとつです。大切に育てていくことが、私たち市民の努めだと考えます。

大館のことを考えて 積極的な 行動しよう

昨年十一月、市民文化会館で「まちづくり二十一世紀計画 どうする大館」というシンポジウムがあり、私も参加して大館のまちづくりについて提言させていただきました。(①提言の内容については広報の一月一日号をご覧ください) — 広報係。

そこで感じたことは、アドバイザーの先生から「大学であれ、飛行場であれ、企業であれ、なんでも来てはしかなかったら、全市あげての熱意と行動がなければだめだ」という言葉でした。

口だけでは来ません。これは観光も同じではないでしょうか。

◀シンポジウムで提言する吉田レポーター



これらのものを大館にもってこるには、アドバイザーの先生たちがいっていたように、全国にいる大館の出身者をフルに活用し、人と人とのつながりを大切にしていくことが必要だと思います。

この大館の将来を考えるシンポジウムは、これからも開かれる予定です。このシンポジウムに、より多くの市民が参加してアイデアを出しあい、話し合うことで大館はもっと変わっていくと思います。

また、市民一人ひとりが「大館のことについて」いま自分にできることは何かということに常に考え、祭りでも会議でも参加する機会があったら積極的に参加し、そして行動を起こしてください。それが大館の発展につながるのですから。

◆「広報市民レポーターだより」は、6人のレポーターが独自に取材した記事を掲載しています。